

平成26年度 全国学力・学習状況調査

浦河町調査結果の公表

平成26年度「全国学力・学習状況調査（4月22日実施）」が、全国の中学3年生と小学6年生を対象に行われました。

この結果を基に、町内8校（小学校5校・121名／中学校3校・128名）の児童・生徒の結果をまとめましたので公表します。

この調査は、児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を改善するのが目的です。

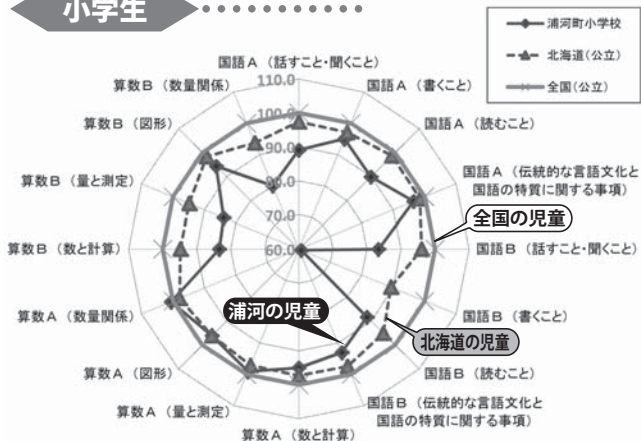
教育委員会では、これからも学校と連携をとりながら、学力向上に向けた更なる取り組みを進めて参ります。

ご家庭においても、お子様の生活習慣や学習習慣等について考える資料にさせていただきますよう、お願いいたします。

【教科に関する調査】（国語・算数・数学）

- 小学校第6学年（国語・算数）、中学校第3学年（国語・数学）基礎力を問うA問題と応用力を測るB問題で実施
- 各教科の領域別結果：全国を100とした場合の全道及び市町村（浦河町）の状況を示したものの

小学生



中学生



小学生・中学生とも

「書くこと」に課題が

今年度の調査結果では、浦河の小・中学校は共に全道平均以下でしたが、小学校算数Aでは基礎力の向上が見られ、全国平均にも近く、領域別では「数量関係」で全国平均以上でした。

国語の結果を見ると、小・中学校共に「書くこと」が課題で、自分の考えをまとめたり、相手にわかりやすく伝える力を伸ばしていく必要があります。

中学校数学では、全体的な底上げが必要です。特に資料を読み取り、「判断の理由を説明する力」などを伸ばし

「家庭学習」・「読書」

習慣をつけることが課題

学習状況調査から、浦河では「早寝・早起き・朝ごはん」の基本的な生活習慣を身に付けている子どもが多い反面、家庭での学習時間が短い結果となつています。また、中学生の読書離れの傾向も見られます。

学力向上のためには、学校での「分かる授業」、家庭での「学習習慣や読書習慣」の確立がこれまで以上に必要です。今後も学校と家庭との連携の下、取り組んで参ります。

浦河町児童・生徒の結果分析から（評価の高い項目）

小 学 校	教科	児童質問	学校質問
中 学 校	教科	●国語A「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の全道・全国との差が最も小さくなっている。 ●算数A「数量関係」が全国平均を上回っている。	●各学校で、漢字・語句など基礎的・基本的な事項を定着させる授業を行ってきたことにより、国語の勉強は大切であると考えられる子どもが多くなるとともに、国語A「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の力が高まってきていると考えられる。
	生徒質問	●国語の勉強は大切と回答した子どもの割合が全道・全国より高い。 ●朝食を毎日食べていると回答した子どもの割合が全道・全国より高い。	●各学校で、家庭学習の与え方について、校内の教職員で共通理解を図ったことにより、家で学校の授業の予習をしている子どもが多くなるとともに、国語A「読むこと」の力が高まってきていると考えられる。
	学校質問	●国語の漢字・語句など基礎的・基本的な事項を定着させる授業を行ったと回答した学校の割合が全道・全国より高い。 ●学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えたと回答した学校の割合が全道・全国より高い。	●数学の指導として、発展的な学習の指導や計算問題などの反復練習を行ったと回答した学校の割合が全道・全国より高い。 ●言語活動に重点を置いた指導計画を作成したと回答した学校の割合が全道・全国より高い。